

(様式6)

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年11月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2874300367		
法人名	社会福祉法人 みすず福祉会		
事業所名	グループホームすまいる		
所在地	赤穂市鷗和95-35 (電 話) 0791-43-8988		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成20年11月18日

【情報提供票より】(平成20年8月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 16人, 非常勤 3人, 常勤換算 14.85人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	18,000円+光熱水費実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 350 円	昼食 600 円	
	夕食 650 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり	1,700 円	

(4) 利用者の概要(8月11日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	64 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	てんわかかりつけ医院
---------	------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の方々との交流、利用者の外出支援の援助を謳った理念を作成し、前年度の評価結果の改善に積極的に取り組んでいる。ホームの三方は民家に囲まれており、地域との交流も増えてきている。広い畑では、季節の野菜や花々を栽培しており、自分の役目と思って励まれている男性利用者もいる。ホームの日常生活になくてならないものとなっている。職員研修については充実してきており、質の向上を目指して職員の参加希望も多く活気が見られる。運営推進会議ではメンバーからの提案や協力があり、積極的な取り組みを行っている。日常の外出支援については、地域への呼びかけや業務の見直しを行い、更に利用者の希望に添うことが期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	前回の改善点について全体会議で報告し、話し合いが行われている。特に職員研修については、外部の研修の機会が増えており、今年度から計画的に実施している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4) 今回の評価は職員全体に知らされており、管理者が作成した自己評価を回覧し、職員それぞれが気づいた点を書き、ユニット会議で話し合いがもたれた。それらを踏まえて、管理者・ユニットリーダー・介護支援専門員で最終検討し、作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	運営推進会議は、今年度5月・7月・9月と2ヵ月に1回実施している。推進会議のメンバーは市会議員、市の担当課職員、自治会、民生委員2名、地域包括支援センター職員など幅広い参加となっている。会議には自己評価が出されており、職員の気持ちの引き締めと共に、お互いに質の向上について検討している。外出支援について民生委員から協力の声も出てきている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	家族には、利用者の暮らしぶりについて、月1回すまいるホーム便り・金銭残高・身体状況の報告を送付している。運営に関する意見を聞く取り組みとして、玄関に意見箱を置いているが、家族が訪問された時主として管理者が苦情を聞くようにしている。洗濯物の間違いの苦情や外出の要望があり、外出については運営推進会議で民生委員から協力の申し出の記録がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	ホームは自治会、老人会に加入できない条例はあるが、利用者で地域に住まいがある人は入会し、地域の行事に参加している。市の担当者や自治会長からの情報で、市の夏まつり・盆踊り・大学祭などに参加している。地域の廃品回収には、日ごろから利用者と職員の協力により整理集荷し、取り組んでいる。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人のみならず福祉会の理念と共に、グループホームすまいるの理念も作成している。その内容は外出などの実施により地域との交流を図るなど、地域密着型サービスの理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域との交流の強化に向けて月1回の会議で立案し、理念の実践に向けて具体的に取り組んでいる。夏祭りなど地域の行事に参加したり、またボランティアとして地域の民生委員に利用者の話し相手になってもらったりして、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは自治会、老人会に加入できない条例はあるが、利用者で同じ地域に住まいがある人は入会し、地域の行事に参加している。市の担当者や自治会長からの情報で、市の夏まつり・盆踊り・大学祭などに参加している。地域の廃品回収には、日ごろから利用者と職員の協力により整理集荷し、取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点について全体会議で報告し、話し合いが行われている。特に職員研修については、外部の研修の機会が増えており、今年度から計画的に実施している。今回の評価は職員全体に知らされており、管理者が作成した自己評価を回覧し、職員それぞれが気づいた点を書き、ユニット会議で話し合いがもたれた。それらを踏まえて、管理者・ユニットリーダー・介護支援専門員で最終検討し、作成した。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、今年度5月・7月・9月と2ヵ月に1回実施している。推進会議のメンバーは市会議員、市の担当課職員、自治会、民生委員2名、地域包括支援センター職員など幅広い参加となっている。会議には自己評価が出されており、職員の気持ちの引き締めと共に、お互いに質の向上について検討している。外出支援について民生委員から協力の声も出てきている。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも介護認定の申請の他、分からないことは気軽に尋ねることができる関係性にある。週1回、理事長や法人本部の統括部長が市役所の担当課に行き、話し合いの機会を持っている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、利用者の暮らしぶりについて、月1回すまいるホーム便り・金銭残高・身体状況の報告を送付している。職員の異動については、ホーム便りに写真入りで新人紹介をし、退職の職員については文書で知らせている。また、利用者の状態に変化があれば、電話や面会で報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いているが、家族が訪問された時主として管理者が苦情を聞くようにしている。洗濯物の間違いの苦情や外出の要望があり、外出については運営推進会議で民生委員から協力の申し出の記録がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規採用職員には、リーダー等経験のある職員が2週間ほどついて指導している。退職する職員は、利用者へのダメージを防ぐために利用者全体に挨拶はしないが、一部の利用者には告げている。新規採用職員はホーム便りに写真入りで紹介している。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の際に、介護については管理者、看護については看護師が講師を担当している。脳梗塞等の疾病に関する勉強会や緊急時の対応に関する勉強会などを5回実施している。外部研修は、ADLに関する研修、グループホームの研修、リハビリセンターでの講習などに参加し、職員全員が意欲的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成18年度より、たつの市、相生市のグループホームとネットワークを構築しており、管理者同士は2ヵ月に1回交流している。最近では、相生市のグループホームの職員が一日訪れ、交流・研修を実施している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望の方には本人、家族に見学してもらい、利用が決定した場合には、3人の職員で自宅を訪問して話を聞いている。入居後は、野菜づくり、お料理などできることを通してホームに馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	おはぎや柏餅づくりの際には、職員はレシピを読みながら調理しているが、時間がかかるため、利用者から昔の経験を活かして教えてもらっている。また、巻き寿司の作り方、灰とり等いつも教えてもらう関係にある。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様々な障害のある利用者に対して、顔色や反応の仕方など日常の見守りで意向を把握するように努めている。また、相性の良い職員を担当にしたり、カラオケで気分よく過ごしてもらうことを通じて思いを把握している。利用者それぞれの特徴に合わせて対応している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	現場担当者がユニット会議で問題を抽出し、管理者、介護計画担当者、ユニットリーダーでカンファレンス会議を行い、ケア会議で職員全員に説明し、看護師や家族の希望も取り入れ、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1回定期的に見直しを行い、状態を見直している事例の記録がある。変化時の見直しで、入院後の見直し計画を確認している。介護計画は、担当者のきづきシートをもとにケア会議で立案し、カンファレンスで取り入れ話し合いをもち、見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの隣に理事長の経営する病院があり、医療連携体制を取り入れている。定期的な健康チェック（診断）も取り入れており、本人・家族の要望で通院の介助や入院の付き添いなど、必要時には支援している。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣のかかりつけ医院の他に、市民病院の医師がかかりつけ医である。市民病院には、理事長が過去に在籍しており、適切な受診ができる連携体制がある。また、定期健診や定期の往診もあり、それ以外にも週2回隣接する病院から看護師が訪問している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急性・重度・終末期の対応方針があり、利用時に説明しており、ターミナルケアに対応した事例がある。重度化した場合は家族に対して、医師・ホームが一体となり、再度の確認の場を持っている。		
5. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新人研修には必ずプライバシーに関する研修を実施しており、接遇についても配慮している。声かけにも注意を払い、排泄失敗時は他の人に分からないように配慮している。契約書に守秘義務や個人情報提供同意書の記載があり、個人のファイルは鍵のかかる書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は日々思い思いに過ごされており、朝5時からリビングで新聞を読んだり、野球のナイター中継が終わるまでテレビを見ている方もいる。その日の気分でやりたいことも違うので、無理強いするのではなく、見守りながら支援している。希望が表出できない利用者には、家族からも希望や意向を聞いている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する資格を持っている利用者があり、職員と共に職場感覚で調理に関わっている。他の利用者も各自ができる範囲で手伝っている。畑で取れた食材が食事時の話題になっていた。買い物する所が遠いので、地域の魚の行商に声かけし、週2回ホームに来てもらい、旬の魚が食べることができ好評である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は普通の個浴と機械浴が設置されており、機械浴が必要な利用者は、午後からの入浴となっている。それ以外の利用者は、毎日利用者の好きな時に入浴ができ、希望に沿った支援を行っている。毎日入る人、夜寝る前に入る人もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の中には自分の仕事のように季節の野菜作りをしている。他の利用者も手伝い、植えつけの計画から収穫までほとんど利用者で行っている。料理の好きな方は1日3食とも台所に立ち調理している。最近は、ボランティアによる歌と踊りが利用者の楽しみごとになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に行きたい利用者は、職員と共に近くのスーパーに行っている。また、月1回は花見や地域の行事に外出しているが、週1回程度近くの海岸などの散歩に留まっており、十分な外出支援はできていない。	○	外気にふれることの重要性を意識し、民生委員・ボランティアや好意的な近隣の方に依頼して、さらに外出の機会を増やせるよう期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を出るとすぐに国道が走っているのに、玄関のドアは職員が操作しないと開かない状態であるが、グループホーム内に施錠している場所はない。	○	交通量の多い道路沿いであるが、利用者の行動を把握し、見守りを行うことにより、引き続き鍵をかけないケアに取り組むことが望まれる。

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携して、年2回防災訓練を日中と夜中を想定して実施している。住宅が隣接していることと、運営推進会議のメンバーが隣の家の方ということもあり、災害時の協力をお願いしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者が栄養面のバラツキがないように意識して献立を立て、看護師が採血した数値を目安に健康状態を確認している。食事摂取量、水分量はパソコンで記録している。水分確保においては、必要量が飲めるように声かけを行い、配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓には庭で咲いた花を利用者がコップに飾られたり、玄関にはめだかが水槽で泳いでいたり、各部屋のドアに思い思いの季節の飾りがついている。どの部屋も採光がよく、風も心地よく入っていた。リビングに置かれている調度品も家庭的で、落ち着いた雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッド以外は利用者の持ち込みで、各部屋は各々の生活に合わせて家具などを持ち込み、温かみのある部屋になっている。全体的にどの部屋も使い慣れたものが多く持ち込まれている。		



は、重点項目。